中期目標の達成状況に関する評価結果

奈良女子大学

平成２９年６月

大学改革支援・学位授与機構

目　　次

法人の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

（法人の達成状況報告書から転載）

評価結果

≪概要≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

≪本文≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

≪判定結果一覧表≫　・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

奈良女子大学は 1949 年（昭和 24 年）に発足し、「女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与すること（学則）」を目的として教育研究活動を行ってきた。

さらに、社会における女性の知的自立と知的展開能力の獲得を目指し、時代状況や社会の変化に柔軟に対応し、また、社会からの要請に応えていくため、次の四つの基本理念を掲げている。

理念１　男女共同参画社会をリードする人材の育成
－女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ－

理念２　教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化

理念３　高度な基礎研究と学際研究の追究

理念４　開かれた大学
－国際交流の推進と地域・社会への貢献－

奈良女子大学は、この基本理念に基づき、次の事項を基本的な中期目標として定める。

１）社会のリーダーとして男女共同参画社会の実現に貢献し活躍する女性人材を育成する。また、女性のライフサイクルに配慮した教育研究環境の整備、女性教員比率の向上を図り、男女共同参画社会実現の先行モデルとなる。

２）学士課程においては、体系的に構築された専門教育、キャリア教育と教養教育により、幅広い分野で活躍できる女性人材を育成する。大学院課程においては、高度な専門教育を行い、国際的にも活躍できる研究者・高度専門職業人として男女共同参画社会をリードし活躍する女性人材を育成する。

３）国際的水準の個性的、独創的な基礎研究や応用研究を推進するとともに、本学の特徴を生かした分野横断的な研究を展開する。

４）地域に開かれた大学として、社会連携を推進するとともに、アジア諸国を中心とした国際交流を推進する。

５）社会の要請や時代の変化に柔軟に対応できるよう、必要に応じて教育研究組織や業務全般の見直しを行い、効率的な組織運営を図る。

１.奈良女子大学は 1908（明治 41）年に創立された官立の奈良女子高等師範学校を前身とする。文学部、理学部、生活環境学部及び大学院人間文化研究科（博士前期課程・博士後期課程）を有し、学生数 2,692 名、役員及び教職員数 208 名（いずれも平成 27 年５月１日現在）の小規模な国立の女子大学として運営している。学内に７つの共同教育研究センターを置くほか、大学附属中等教育学校、小学校、幼稚園の附属学校を持つ。

２．前身の奈良女子高等師範学校は文科、理科、家事科を置き、文系から理系までの幅広い分野で女子の高等教育を担う人材を輩出した。奈良女子大学もその伝統を引き継ぎ、

高度な研究を推進するとともに、幅広い分野で主体的に活躍できる女性人材を育成してきた。上記中期目標については、これを踏まえ定められたものである。

[個性の伸長に向けた取組]

１.女性人材の育成と支援

１）基本理念に掲げる「男女共同参画社会をリードする人材の育成」を進めるため、男女共同参画推進機構を設置した。同機構を中心に本学の男女共同参画を進める事業を行ったほか、女子学生のロールモデルともなる女性教員の採用を促進し、女性のライフサイクルに配慮した研究活動を支援する事業を実施した。またあわせて、ポストドクター及び博士後期課程に在籍する学生のキャリア支援のための事業も実施した。

（関連する中期計画）計画 1－１－８－２、計画 1－１－１５－１、計画 1－２－１－１
計画１－２－２－２、計画２－１－１－２、計画２－２－１－１
計画２－２－２－２

２）諸外国と比しわが国は理工系女性リーダーが極端に少なく、少子高齢化が進む中、科学技術立国の未来が危ぶまれている。そこでお茶の水女子大学と共同で、平成 26 年度以降文部科学省の「国立大学改革強化推進補助金」を受けながら、理工系女性リーダー育成拠点の形成に取組んだ。平成 27 年度には「理系女性教育開発共同機構」を立ち上げ、理工系女性人材育成のための教育プログラムの開発に取組んだ。また両大学共同で「生活工学共同専攻」を平成 28 年度に設置する準備を進め、女性の強みを活かした生活者の視点に立った新たな工学分野の立ち上げに取組んだ。

（関連する中期計画）計画 1－１－４－３、計画 1－１－９－３、計画２－１－１－２

３）女性リーダーとしてグローバルに活躍できる人材を育成するためには、自ら考える力と語学力が必要となる。そこで教養教育改革に取組み、平成 26 年度に新たな教養教育の理念「奈良女子大学的教養―５つの問いと７つのアプローチ」を策定、それに基づく新たな授業科目を立ち上げるとともに英語教育の改善に取組んだ。

（関連する中期計画）計画 1－１－１－２、計画 1－１－１－３

２．本学の特徴を活かした研究活動

平成 25 年度に本学のミッションについて文部科学省と協議を行い、各学部･研究科の強みと特色を整理した。人文科学分野では「奈良」地域を対象とした様々な分野からのアプローチによる総合的研究、理学分野では「基礎物理学/分子科学/基礎生物学/高エネルギー物理学」、生活環境科学分野では「衣食住を基盤とした健康と文化に関する研究、特に、機能的な被服に関する研究等」が評価され、それらを伸長する研究を実施した。

（関連する中期計画）計画２－１－１－１、計画２－１－１－２、計画２－１－１－３

３．アジア諸国を中心とした国際交流の推進

本学ではアジア諸国を中心とした国際交流を推進しており、平成 22 年度以降は毎年、中国（１大学）及びベトナム（４大学）の交流協定締結大学に教員を派遣し、各大学で集中講義を行ったほか、学生も同行し、学生交流プログラムを実施した。また新たに６カ国６

大学と大学間交流協定や学生交流協定の締結を行ったほか、３大学とダブルディグリープログラムに関する協定を締結した。

（関連する中期計画）計画１－１－３－１、計画１－１－１０－１
計画３－２－１－１

４．社会の要請や時代の変化への対応状況

社会の要請や時代の変化に対応するため、教育研究組織の見直しを行った結果、文学部及び理学部を基礎科学、生活環境学部を応用科学の実践組織と位置づけ、平成 26 年度に学部の枠を越えた改組を実施した。そしてこの改組を円滑に実行するため、教員組織と教育研究組織を分離した研究院を平成 24 年度に発足させた。

また、理工系女性人材育成の社会的要請に応えるため、平成 28 年度にお茶の水女子大学と共同で大学院博士前期課程及び後期課程に生活工学共同専攻を設置するための準備を進め、生活に根ざした新しい工学分野の立ち上げに取組んだ。

（関連する中期計画）計画１－１－２－２、計画１－１－９－３、計画１－２－１－１
計画２－１－１－２

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

１．医療支援

文部科学省 EOC 医療班からの要請により、住民の一時帰宅に伴うスクリーニングの実施に係る放射線測定の専門家（教員６名）を福島県に派遣した（平成 23 年度。派遣回数 12 回。作業日数延べ 19 日）。

２．救援物資等

大学として学内外で募金活動を行い、総額 995,570 円を日本赤十字社に寄附した。また附属中等教育学校では衣料品及び学用品等を被災地に発送したほか、生徒会及び卒業生有志による駅前での音楽演奏により募金活動を行い、約 700 万円の義援金を日本赤十字社等に寄附した。このほか附属小学校･幼稚園においても義援金の募金を行い、日本赤十字社等に寄附した。

３．被災者への経済支援

附属中等教育学校に福島の私立学校からの転入生を受け入れ、入学料免除措置を行った。また平成 24 年度入学志願者を対象に、申請に基づき検定料を免除した。

４．その他

大学として３週間を上限としてボランティア活動を公欠として認める制度を設け、学生から 13 件の活動届出が提出された。このほか、関西の大学の学生と連携を取り、本学の学生５名が釜石の商店街で復興支援を行った。

また震災直後の４月に震災支援関係授業科目を立ち上げ、遠隔地からもできる支援の方法を受講生が企画・実践した。

評価結果

≪概要≫

第２期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、奈良女子大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	中期目標（中項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
			非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
（Ⅰ） 教育に関する目標		おおむね良好				
	① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好			15	
	② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			3	
	③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			2	
（Ⅱ） 研究に関する目標		おおむね良好				
	① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好		1	1	
	② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			4	
（Ⅲ） その他の目標		おおむね良好				
	① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			1	
	② 国際化に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

○　平成 27 年度にお茶の水女子大学と共同で理系女性教育開発共同機構を設置し、中等教育改革、大学理工系教育改革及びグローバル化推進の各プロジェクトを推進している。附属中等教育学校との理数研究会の設置、理学部における新科目「社会にでるまでに知っておきたい科学」の開講、TJ-SSF（Thailand-Japan Student Science Fair）への参加等、理系女性人材育成のための調査・研究を行っている。（中期計画 1-1-4-3）

個性の伸長に向けた取組

○　文部科学省事業「組織的な大学院教育改革推進プログラム」の事業期間終了後の平成 23 年度からも、後継プログラムとして「専門応用英語」、「女性先端科学者セミナーⅡ」等の科目を開講している。また、平成 23 年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ポストドクター・キャリア開発事業」に関連する授業科目を平成 24 年度から毎年度 5 科目開講することで、高度専門職業人育成教育の充実を図っている。（中期計画 1-1-8-2）

○　大学の基本理念に掲げる、男女共同参画社会をリードする人材の育成を推進するため、平成 22 年度から平成 26 年度に文部科学省の女性研究者養成システム改革加速事業を実施し、女性教員比率を平成 22 年度の 29.6％から平成 27 年度の 35.0％へ増加させている。また、平成 24 年度に教育・研究組織を分離した教員組織である研究院を設置し、学長主導により教員の選考を行い、平成 24 年度から平成 27 年度までに 19 名の採用を決定している。（中期計画 1-2-1-1）

○　地域住民や学生の登録サポーターが子育て支援を行う子育て支援システムにより、学会や研究会における託児制度「イベント託児システム」及び通常の保育所に預けにくい曜日や時間帯の保育である二次保育や緊急時保育に重点を置いた「ならっこネット」を実施し、平成 26 年度の利用者登録数は 41 名、サポーター登録数は 66 名となっている。また、地域の保育施設と連携して、子育て支援システムを支えるサポーター養成講座を実施することにより、女性のライフサイクルに配慮した教育研究課程の整備充実を図っている。（中期計画 1-2-2-2）

○　平成 23 年度から平成 27 年度の科学研究費助成事業の細目別採択状況は、衣･住生活学が第 1 位、人文地理学と中国文学が第 4 位になっており、計 8 分野で上位 10 機関以内に入っている。また、科学技術・学術政策研究所（NISTEP）の「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング 2011」の分析で、物理学分野が研究の質について最上位の Q1 と評価されている。（中期計画 2-1-1-1）

○　学長を中心に、４つの研究分野を重点領域として策定し、多分野融合的な「なら学」研究を確立したほか、理系と融合した環境歴史科学創成分野では、新たな視点からの研

究として古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業、さらにそれを引き継いだタンパク質考古学創成事業を推進している。（中期計画 2-1-1-3）

○　育児・介護等に携わる女性研究者に対する教育研究支援員の配置、理工系若手教員に対するメンターチームによる支援、新規採用の女性研究者に対するスタートアップ支援経費の支給等により、女性のライフサイクルに配慮した研究環境の整備を図っている。（中期計画 2-2-2-2）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

○　医療支援

文部科学省 EOC 医療班からの要請により、住民の一時帰宅に伴うスクリーニングの実施に係る放射線測定の専門家（教員 6 名）を福島県に派遣した（平成 23 年度。派遣回数 12 回。作業日数延べ 19 日）。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

≪本文≫

（Ⅰ）　教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育に関する目標」に関する中期目標（３項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．中期目標の達成状況

（１）教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（15 項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した 15 項目のうち 1 項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された 1 計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○お茶の水女子大学との共同による理系女性教育開発共同機構の設置

中期目標（小項目）「教育効果を高めるために授業形態・学習指導法を改善する。」について、平成 27 年度にお茶の水女子大学と共同で理系女性教育開発共同機構を設置し、中等教育改革、大学理工系教育改革及びグローバル化推進の各プロジェクトを推進している。附属中等教育学校との理数研究会の設置、理学部における新科目「社会にでるまでに知っておきたい科学」の開講、TJ-SSF（Thailand-Japan Student Science Fair）への参加等、理系女性人材育成のための調査・研究を行っている。（中期計画 1-1-4-3）

○高度専門職業人育成教育の充実

中期目標（小項目）「専門的能力のみならず、実践力を持つ高度専門職業人・研究者として男女共同参画社会をリードし活躍できる女性人材育成のための教育を実施する。」について、文部科学省事業「組織的な大学院教育改革推進プログラム」の事業期間終了後の平成 23 年度からも、後継プログラムとして「専門応用英語」、「女性先端科学者セミナーⅡ」等の科目を開講している。また、平成 23

年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ポストドクター・キャリア開発事業」に関連する授業科目を平成 24 年度から毎年度５科目開講することで、高度専門職業人育成教育の充実を図っている。（中期計画 1-1-8-2）

（特色ある点）

○キャリア形成の推進

中期目標（小項目）「女性の高度専門職業人・研究者を育成する。」について、女性の高度専門職業人・研究者を育成するため、博士前期課程及び博士後期課程の授業科目群にキャリア形成群を設定し、博士後期課程の学生及びポストドクターを対象としたキャリア形成支援を実施し、大学院におけるインターンシップ科目を開講している。（中期計画 1-1-15-1）

（２）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○女性教員採用の推進

中期目標（小項目）「教育理念・教育目標を達成するために適切な教職員等の配置を行う。」について、大学の基本理念に掲げる、男女共同参画社会をリードする人材の育成を推進するため、平成 22 年度から平成 26 年度に文部科学省の女性研究者養成システム改革加速事業を実施し、女性教員比率を平成 22 年度の 29.6％から平成 27 年度の 35.0％へ増加させている。また、平成 24 年度に教育・研究組織を分離した教員組織である研究院を設置し、学長主導により教員の選考を行い、平成 24 年度から平成 27 年度までに 19 名の採用を決定している。（中期計画 1-2-1-1）

○子育て支援システムの構築

中期目標（小項目）「教育理念・教育目標を達成するために教育環境の整備充実を行う。」について、地域住民や学生の登録サポーターが子育て支援を行う子育て支援システムにより、学会や研究会における託児制度「イベント託児システム」及び通常の保育所に預けにくい曜日や時間帯の保育である二次保育や緊急時保育に重点を置いた「ならっこネット」を実

施し、平成 26 年度の利用者登録数は 41 名、サポーター登録数は 66 名となっている。また、地域の保育施設と連携して、子育て支援システムを支えるサポーター養成講座を実施することにより、女性のライフサイクルに配慮した教育研究課程の整備充実を図っている。（中期計画 1-2-2-2）

（３）学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○子育て中の学生への支援の推進

中期目標（小項目）「生活面・就職面におけるきめ細かな学生支援体制を充実する。」について、子育て支援システム「ならっこネット」の利用者を対象に、平成 24 年度に学生に対する育児奨学金制度を導入し、平成 26 年度及び平成 27 年度はそれぞれ 1 名の子育て中の学生へ支給を行っている。（中期計画 1-3-2-2）

（Ⅱ）　研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究に関する目標」に関する中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．中期目標の達成状況

（１）研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○科学研究費助成事業の採択推進

中期目標（小項目）「個性的かつ独創的な研究課題の策定に努め、高度な水準の基礎的・応用的研究及び学際研究を推進する。」について、平成 23 年度から平成 27 年度の科学研究費助成事業の細目別採択状況は、衣･住生活学が第１位、人文地理学と中国文学が第４位になっており、計８分野で上位 10 機関以内に入っている。また、科学技術・学術政策研究所（NISTEP）の「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング 2011」の分析で、物理学分野が研究の質について最上位の Q1 と評価されている。（中期計画 2-1-1-1）

○４つの重点領域研究の推進

中期目標（小項目）「個性的かつ独創的な研究課題の策定に努め、高度な水準の基礎的・応用的研究及び学際研究を推進する。」について、学長を中心に、４つの研究分野を重点領域として策定し、多分野融合的な「なら学」研究を確立したほか、理系と融合した環境歴史科学創成分野では、新たな視点からの研究として古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業、さらにそれを引き継いだタンパク質考古学創成事業を推進している。（中期計画 2-1-1-3）

（２）研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○女性研究者への研究環境の整備

中期目標（小項目）「研究を効果的に進めるための設備等の充実を図る。」について、育児・介護等に携わる女性研究者に対する教育研究支援員の配置、理工系若手教員に対するメンターチームによる支援、新規採用の女性研究者に対するスタートアップ支援経費の支給等により、女性のライフサイクルに配慮した研究環境の整備を図っている。（中期計画 2-2-2-2）

（Ⅲ）　その他の目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「その他の目標」に関する中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．中期目標の達成状況

（１）社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○自治体や地元企業との連携による事業の推進

中期目標（小項目）「地域社会との連携を図り、地域貢献を推進するとともに、大学が保有する研究成果を公開し産学官連携を推進する。」について、平成23 年度に採択された科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業「高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発」では、下市町を対象に、奈良県や地元企業と連携して中山間地の農村コミュニティ活性化事業を実施している。また、下市町、十津川村、野迫川村と包括連携協定を締結して、平成 27 年度に文部科学省の地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に採択され、「共創郷育：「やまと」再構築プロジェクト」に取り組んでいる。

（中期計画 3-1-1-2）

（特色ある点）

○大学が保有する資料・資源の公開

中期目標（小項目）「地域社会との連携を図り、地域貢献を推進するとともに、大学が保有する研究成果を公開し産学官連携を推進する。」について、重要文化財である記念館を中心に大学が保有する歴史資料及び教育・学術に関する文化資源の整備を行うとともに、一般公開の際にテーマを設定して資料の展示を行うなど、その成果を公開している。（中期計画 3-1-1-3）

（２）国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

≪判定結果一覧表≫

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目）	計画番号	中期計画	判定	特記すべき点
（Ⅰ） 教育に関する目標			おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標			おおむね良好	
教養教育・専門教育・キャリア教育等の体系的連携を推進し、社会のリーダーとして活躍できる豊かな人間性を備えた女性人材育成のための教育を実施する。			おおむね良好	
	1-1-1-1	入学から卒業までの一貫した教育課程の編成を行うためのカリキュラム・ポリシーを策定し、教養教育科目、専門教育科目、キャリア教育科目の連携の下、知識を深め、汎用的技能、能動的態度、創造的思考力を培う教育を行う。	おおむね良好	
	1-1-1-2	社会のリーダーとして活躍できる豊かな人間性を備えた女性人材を育成するために、教養教育を充実させる。	おおむね良好	
	1-1-1-3	初年次教育を強化するとともに専門基礎科目を設定し積極開放科目を活用するなど、専門教育と教養教育との連携を強化する。	おおむね良好	
	1-1-1-4	ディプロマ・ポリシーを策定するとともに、PDCAサイクルが組織的に稼働する体制を整備する。	おおむね良好	
大学の基本理念、目的、特色等に応じてアドミッション・ポリシーを明確化し、入学者受入れを工夫する。			おおむね良好	
	1-1-2-1	アドミッション・ポリシーをカリキュラム・ポリシー並びにディプロマ・ポリシーとの連関の中で見直し、明確化する。	おおむね良好	
	1-1-2-2	入学者選抜方法を工夫するとともに、必要に応じ入学定員等を見直す。	おおむね良好	
留学生の受入れを推進する。			おおむね良好	
	1-1-3-1	支援体制の更なる整備を行うなどして、アジア諸国を中心とする留学生の受入れを積極的に進める。	おおむね良好	
教育効果を高めるために授業形態・学習指導法を改善する。			おおむね良好	
	1-1-4-1	学生支援室に学習支援部門を置き、教育計画室及びFD推進委員会と連携しつつ、能動的な学習に配慮した学習指導を推進する。	おおむね良好	
	1-1-4-2	講義と演習・実習・実験等を組み合わせる形態の４単位科目を新設し、またe-Learningを活用した授業を開講する等、多様な教育方法を実践する。	おおむね良好	
○	1-1-4-3	理系女性人材育成のための数学・物理の基礎教育の在り方等を検討し、その成果を社会に広く提供するため、お茶の水女子大学と共同で「理系女性教育開発共同機構」を設置し、調査研究等に取り組む。	良好	優れた点

（注）計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目）	計画番号	中期計画	判定	特記すべき点
PDCAサイクルを稼働させる枠組みを構築し、教育成果・学習成果を検証する。			おおむね良好	
	1-1-5-1	全学FD推進委員会を中心として、３学部各FD委員会において教育成果・学習成果に対する学生アンケートや各種調査等を実施するなどPDCAサイクルを稼働させ、また教育理念の達成度、社会的要請や時代の変化への対応度を検証する。	おおむね良好	
成績評価基準を改訂し、それに基づく厳格な成績評価を実施する。			おおむね良好	
	1-1-6-1	教育計画室に成績評価基準策定チームを設置し、具体的な成績評価基準を策定するとともに、厳格な成績評価を実施する体制を見直し、整備する。	おおむね良好	
現代社会が要請する新しい職業分野への進路にも対応できる専門的能力等を培う。			おおむね良好	
	1-1-7-1	新しい職業分野に対応できる女性人材を育成するため、キャリア教育科目等を充実し、かつ、汎用性のある専門的能力等を培う教育を行う。	おおむね良好	
専門的能力のみならず、実践力を持つ高度専門職業人・研究者として男女共同参画社会をリードし活躍できる女性人材育成のための教育を実施する。			おおむね良好	
	1-1-8-1	多様な教育需要に応じた履修コースの設定、複数教員指導体制、弾力的な修業年限等の教育システムの改善等を引き続き実施する。	おおむね良好	
	1-1-8-2	学際的応用力、実践力を培う科目を配置するなど高度専門職業人育成に対応した教育を充実する。	良好	優れた点
	1-1-8-3	専門知識を身につける科目、広い視野を身につける科目、キャリア形成を支援する科目、分野別外国語力を培う科目、論文作成を指導する科目等を設定するなど科目の役割を明確にする。	おおむね良好	
大学院の基本理念、目的、特色等に応じてアドミッション・ポリシーを明確化し、入学者受入れを工夫する。			おおむね良好	
	1-1-9-1	アドミッション・ポリシーを明確化し、入学者選抜方法を工夫する。	おおむね良好	
	1-1-9-2	秋季入学を実施する。	おおむね良好	
	1-1-9-3	大学院教育の質の向上のため、入学定員を見直す。	おおむね良好	
社会人や留学生等に配慮した弾力的な履修形態、修業年限、資金的援助の拡大を設定することにより、社会人、留学生等の受入れを推進する。			おおむね良好	
	1-1-10-1	社会人の受入れを推進するため、女性のライフサイクルにも配慮し、弾力的な修業年限を設定する。また、諸外国の高等教育機関・研究者等との連携を強化するとともに、アジア諸国を中心に留学生の受入れを推進し、適切な入試を行うなどして質を確保する。	おおむね良好	
教育効果を高めるために、多様な授業形態を導入し学習指導法を改善する。			おおむね良好	
	1-1-11-1	引き続きe-Learningを利用した授業等を実施するなど多様な形態の授業を実施する。また、学生と副指導教員の関わりを増やすなど複数教員指導体制を強化する。	おおむね良好	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目）	計画番号	中期計画	判定	特記すべき点
組織的枠組みを構築し、教育の成果を検証する。			おおむね良好	
	1-1-12-1	全学FD推進委員会を中心として、人間文化研究科FD委員会において教育の成果・効果に対する学生アンケートや各種調査等を実施するなどPDCAサイクルを稼働させ、また教育理念の達成度、社会的要請や時代の変化への対応度を検証する。	おおむね良好	
明確な成績評価基準により、厳格な成績評価を実施する。また博士号申請基準を定期的に見直す。			おおむね良好	
	1-1-13-1	より具体的な成績評価基準を策定する。また学位審査においては外部委員を活用し、厳格な審査を行う。博士号申請基準を博士論文執筆指導要領の改訂時に見直す。	おおむね良好	
組織的に学位授与に関する現状を把握して改善策を講ずるとともに、学生支援を充実する。			おおむね良好	
	1-1-14-1	学生の研究進捗状況を把握するシステムを継続して運用し、かつ、学位授与に関して学生と教員にアンケートを行うなどして現状を把握し、より客観的な学位取得基準を策定する。また「博士候補」を優先的にRAに採用するなど、学生支援を充実する。	おおむね良好	
女性の高度専門職業人・研究者を育成する。			おおむね良好	
	1-1-15-1	女性の高度専門職業人・研究者のキャリア形成・開発の支援体制を強化する。	おおむね良好	特色ある点
② 教育の実施体制等に関する目標			おおむね良好	
教育理念・教育目標を達成するために適切な教職員等の配置を行う。			おおむね良好	
	1-2-1-1	教育理念・教育目標に基づく質の高い教育を実施するために、適切な教職員の配置を行う。	良好	優れた点
	1-2-1-2	教育の実施体制を強化するために、TA制度を充実するとともに新たにSA（学部学生補助員）制度を導入する。	おおむね良好	
教育理念・教育目標を達成するために教育環境の整備充実を行う。			おおむね良好	
	1-2-2-1	既存施設設備等を有効活用するとともに、教育目標の実現に必要な施設、設備（機器）、図書、視聴覚教材等を整備する。	おおむね良好	
	1-2-2-2	子育て支援システムの継続実施、外部保育施設との連携など、女性のライフサイクルに配慮した教育研究環境を整備・充実する。	良好	優れた点
教育関連の室の連携により、教育の質を改善する。			おおむね良好	
	1-2-3-1	教育計画室との連携の下で、FD推進委員会が実施する新人教員研修、FD研修会、学生の授業評価を効果的に活用する体制を構築する。	おおむね良好	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目）	計画番号	中期計画	判定	特記すべき点
③ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
多様な学生に対応した学習面での支援体制を充実する。			おおむね良好	
	1-3-1-1	学生への学習支援を実施するために学生支援室に学習支援部門を置き、教育を所管する室等との連携により、学習支援体制を整備するとともに、学生相談室、クラス担任等の積極的関わりにより、入学から卒業（修了）までの各段階に応じ、多様な学生に対応した適切な学習相談・指導・支援を充実する。	おおむね良好	
	1-3-1-2	チューター制度を拡充するなど社会人、留学生、編入学生、障害を持つ学生に対する支援体制を充実する。	おおむね良好	
生活面・就職面におけるきめ細かな学生支援体制を充実する。			おおむね良好	
	1-3-2-1	学生支援室を中心として、障害をもつ学生を含めた学生の生活・就職に対する指導・支援体制を整備・充実する。	おおむね良好	
	1-3-2-2	学生に対する育児奨学金制度等を導入する。	おおむね良好	特色ある点
	1-3-2-3	メンタル・ヘルスを含めた学生の健康管理体制を充実する。	おおむね良好	
（Ⅱ） 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			おおむね良好	
個性的かつ独創的な研究課題の策定に努め、高度な水準の基礎的・応用的研究及び学際研究を推進する。			良好	
	2-1-1-1	基礎研究と応用研究をそれぞれ深化させるとともに、それらの連携・融合による学際研究を推進する中で、以下の方向性を追究する。 １）高度な水準の基礎的・応用的研究を充実させる。 ２）研究者の個性を活かした独創的研究を育成する。 ３）真理を探究し、文化の発展に寄与する学問を追究する。 ４）社会の現代的諸課題の解決に寄与する研究を推進する。	良好	優れた点
	2-1-1-2	女性研究者に対する要請が高い領域や女性の進出の少ない分野の研究を推進する。	おおむね良好	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目）	計画番号	中期計画	判定	特記すべき点
	2-1-1-3	学長を中心に以下の研究分野を重点領域として策定する。 １）奈良の地に基本的視座を据えて、古代学を基盤として飛鳥時代から平城京、更に中世の南都を経て現代に至るまでを、近畿圏から東アジア圏、さらには欧米圏を含む広範な視野のもとに総合的に研究する「なら学」を推進するとともに、理系の技術を融合した新たな視点からの研究を創出、推進する。 ２）衣・食・住・医や家族環境など、生活を取り巻く様々な諸問題に関する基礎的・応用的研究を進め、先端科学と生活視点の融合による、人間の近接環境と生体の調節機能の研究を推進する。 ３）自然界の各階層における諸現象を対象とする基礎的・応用的研究、並びに、人間と環境との共生を図るための自然科学的見地からの研究を推進する。 ４）アジアにおけるジェンダーに関する諸課題について、国内外の共同研究を推進する。	良好	優れた点
研究成果を国内外に広く発信し、「知的資源」の社会への還元を図る。			おおむね良好	
	2-1-2-1	研究成果を効果的に社会に発信・還元するためのシステムを充実・強化する。	おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね良好	
研究目標・課題を達成するために、適切に研究者を配置する。			おおむね良好	
	2-2-1-1	幅広い学問分野における教育に配慮するとともに、研究目標・課題を達成するために教員組織の見直しを含め、適切に研究者を配置する。	おおむね良好	
研究を効果的に進めるための設備等の充実を図る。			おおむね良好	
	2-2-2-1	学内施設の有効活用を促進し、共通実験設備などを含む研究基盤設備を整備・充実し、研究環境の見直しと改善を進める。	おおむね良好	
	2-2-2-2	女性のライフサイクルに配慮した研究環境を整備する。	良好	優れた点
研究評価システムを改善し、質の向上につなげる。			おおむね良好	
	2-2-3-1	研究活動等の状況や問題点を把握するための評価システムに基づき、組織や教員個人の研究活動を促進するための物的・人的両面からの支援を行う。	おおむね良好	
知的財産の創出、活用及び管理を推進する。			おおむね良好	
	2-2-4-1	知的財産の管理運営体制のもと、知的財産の創出、活用を促進する。	おおむね良好	

中期目標（大項目） 中期目標（中項目） 中期目標（小項目）	計画番号	中期計画	判定	特記すべき点
（Ⅲ） その他の目標			おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標			おおむね良好	
地域社会との連携を図り、地域貢献を推進するとともに、大学が保有する研究成果を公開し産学官連携を推進する。			おおむね良好	
	3-1-1-1	地方自治体等との連携を強化しながら、地域社会の生涯学習ニーズに積極的に応えるために諸分野における地域貢献を推進する。	おおむね良好	
	3-1-1-2	大学間並びに大学以外の諸機関との連携を強化する。	良好	優れた点
	3-1-1-3	重要文化財である記念館等学内の歴史的遺産、及び教育・学術に関する文化的資源を整備し、社会に公開する。	おおむね良好	特色ある点
	3-1-1-4	社会連携センターを中心として、近隣の諸機関と協力し、共同研究を推進する。さらに、大学が保有する知的シーズの発信を促進するとともに、民間等の他機関からのニーズにも対応する。	おおむね良好	
② 国際化に関する目標			おおむね良好	
教育・研究に関する国際的な交流・連携・協力活動を推進する。			おおむね良好	
	3-2-1-1	国際交流計画を策定し、それに基づいて、アジア諸国を中心とする海外の諸大学等との教育研究上の交流を促進する。	おおむね良好	
	3-2-1-2	留学生の受入れの強化に向けて、支援体制を整備する。	おおむね良好	

別　　紙

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

（１）	第２期中期目標期間において、お茶の水女子大学と連携し、女性の特性を生かした新たな理工系研究・教育の在り方を開発することを目的に、新たな理科教育の方法を中等教育課程・高等教育課程それぞれに即して確立するとともに、「生活工学」分野においてイノベーションを先導する女性リーダーの育成を行う計画を進めている。平成27年度にお茶の水女子大学と共同で理系女性教育開発共同機構を設置し、中等教育改革、大学理工系教育改革及びグローバル化推進の各プロジェクトを推進しており、附属中等教育学校との理数研究会の設置、理学部における新科目の開講等、理系女性人材育成のための調査・研究を行っている。